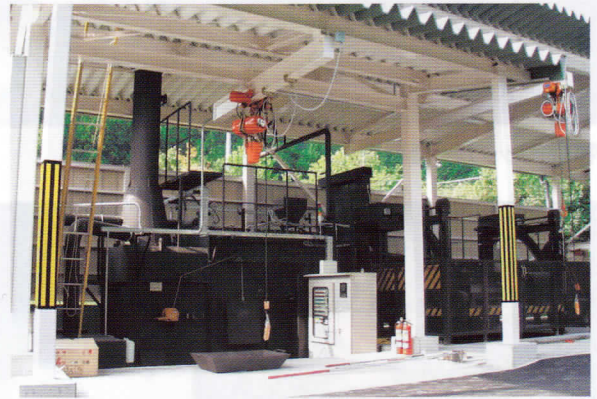


- 牛1頭及び解体後(血液・解体部)の投入でお悩みではありませんか?
- ランニングコストの高騰にお悩みではありませんか?
- 産廃処理費用の高騰・引取り拒否にお悩みではありませんか?
- 死亡牛等の処理量の増加による焼却処理能力でお悩みではありませんか?

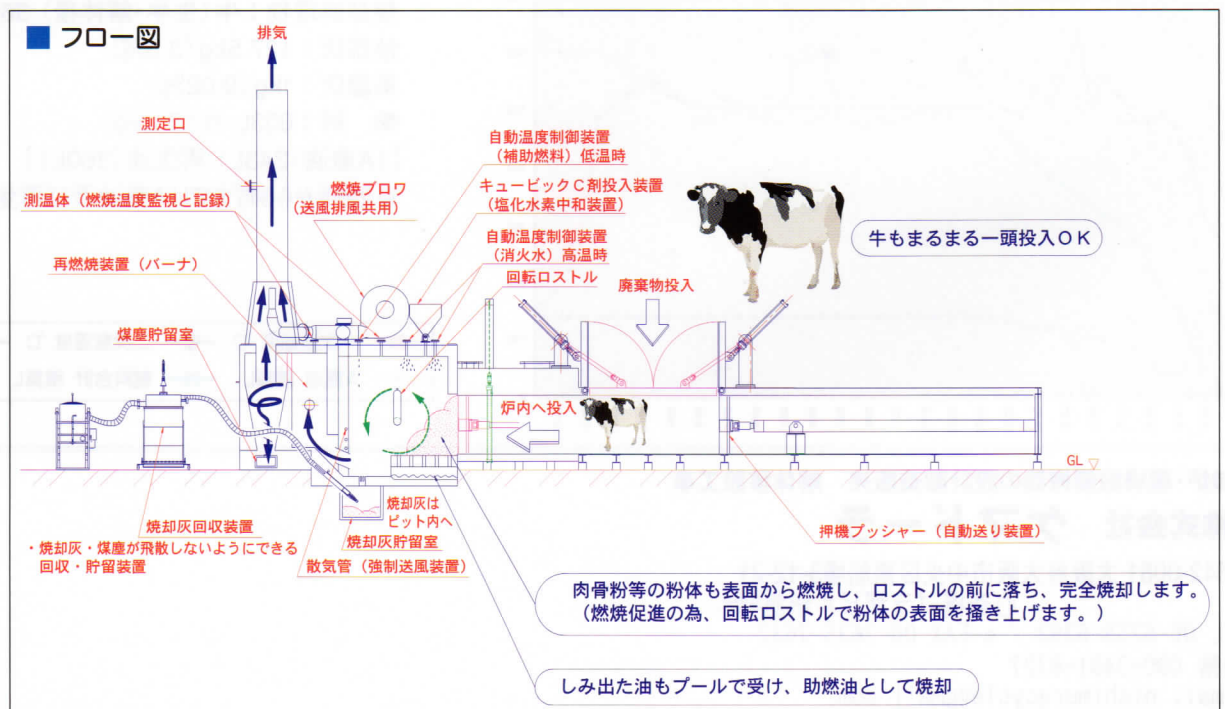
“利益”を生み出す焼却炉

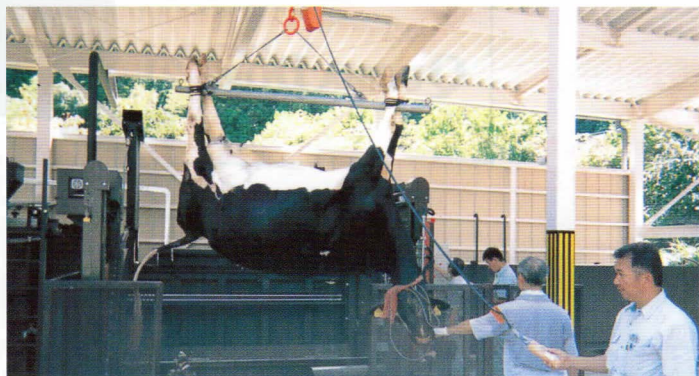
ダイオキシンの排出量も微少で、牛1頭及び解体後の動物残さなどのナマモノを効率的かつ大量(24時間連続追加投入可能)に処理出来るケマドーラを御提案します



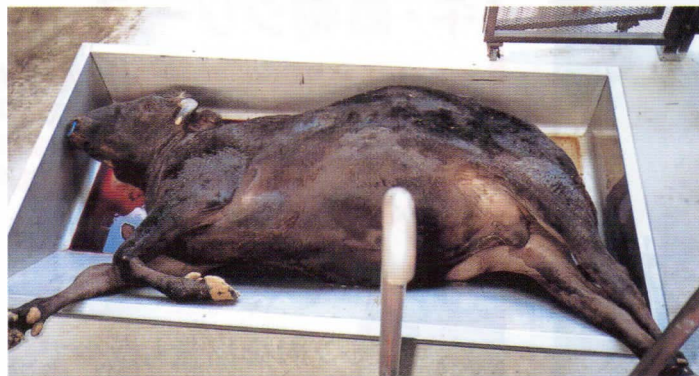
牛肉は燃焼しやすい廃棄物と思われがちですが、含水率が約75%と高く、脂肪分は3.5%と低いため自燃し難い廃棄物です。又、牛1頭にしますと、肉(45%)内臓(29%)生皮(9%)脂肪(4%)血液(3%)骨ヒズメ(10%)となり助燃材が大量に必要になります。従いまして、通常の直燃焼却炉では一次室に助燃用バーナーを2~3基装備し(重油40~60L/h必要)、炉内温度を上げています。一見炉内が燃焼している為、肉が燃焼しているように見えますが油が燃えているだけで(ランニングコストが高くなります)、肉は燃焼していません。又、一括処理焼却炉でも、ガス化と発生ガスの燃焼に助燃バーナーが必要になり(ランニングコストが高くなります)、水分蒸発後に油と乾肉からの発生ガスと助燃バーナーのコントロールが狂うと有害ガスがそのまま大気に排出されます。弊社の焼却処理装置は、牛・牛肉・肉骨粉、乳製品

製造過程から発生する廃棄物(空パック・中身の入った牛乳・汚泥・コーヒー糟等)・冷凍ウンを、人手を掛けず強制的自動押し込み装置(Kシリーズ)により燃焼室に投入し、炉内温度を高温に保ち乾燥焼却を行う特許装置による燃焼システム(高燃・逆燃・再燃)で、助燃バーナーを使わず、可燃物(助燃油用に安価な再生油を使用)と混焼することによりランニングコストを大幅に抑え、高温(800~1100度)で安定燃焼を可能にする焼却処理装置です。従いまして、ダイオキシン類の生成を極小に抑制すると同時に、排ガス中の悪臭・黒煙等の排出を大幅に抑制します。又、自社処理をされる事により昨今問題となっています悪質な産廃処理業者に依る不法投棄の心配も無く、廃棄物処理費の費用対効果も大きく見込めます。





処理物(トラックから直接投入)



処理物



処理物(コンテナ内で解体後そのまま投入)



リフト&反転機でそのままに炉に投入

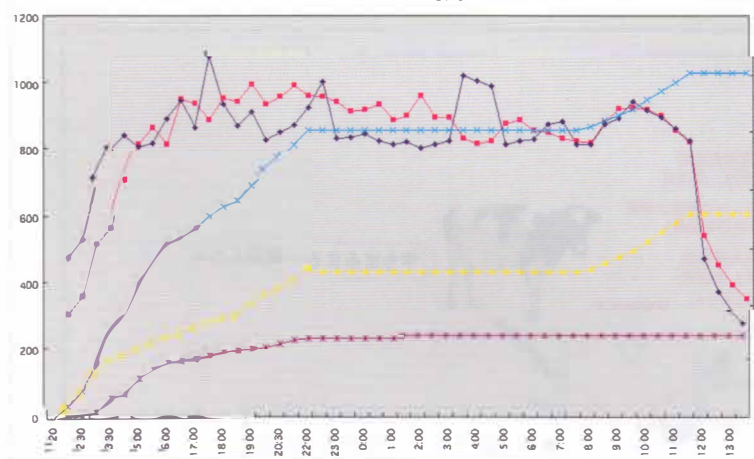


コンテナ内の血液等の液体もそのまま投入



投入扉を閉め焼却開始

家畜衛生保健所での牛の24時間連続焼却実施結果



焼却処理物：牛(生牛・解体後) 3650kg

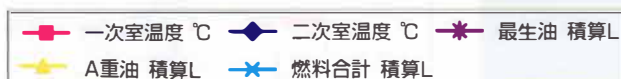
焼却灰：127.5kg (3.5%)

集塵灰：1kg (0.02%)

燃料：603L (0.17L/kg)

[(A重油 (243L) 再生油 (360L))]

※22時から8時まではA重油及び再生油の使用は無し



焼却炉・環境設備機器の設計製造販売解体移設工事

株式会社ケマドーラ

〒541-0057

大阪府大阪市中央区北久宝寺町3丁目6-1 本町南ガーデンシティ7階

TEL 06-7639-8771 / eFAX 06-7635-7632

携帯 090-3491-6727

e-mail nishimuracycle@gmail.com

nishimura@quemadora.co.jp

URL <http://www.quemadora.co.jp>